

転生者は死に戻り、平行世界で強くてニューゲーム

n a m a k o : B E R S E R K E R

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

転生を繰り返す元平凡な土工マン。

最初は三崎亮で世良にハセヲでThe world。

次は桐ヶ谷和人でキリトで浮遊城アイングラッド。

アイングラッドの最後のボスエネミーを倒し、茅場晶彦へ連戦と成り、負けた。

物語の始まりはここから。

目覚めると女の子だった。

桐ヶ谷夜志乃と名付けられた少女が強くてニューゲームするお話。

目次

## 第一話 チュートリアル

気が付けば俺は今度は、桐ヶ谷和人に成った。

俺は三崎亮に転生した平凡な土工マンだった。

前世、the worldのジョブシステム、錬装士（マルチウエポン）に倣い、小太刀二刀、大剣、大鎌を駆使し、魂に憑いてきた碑文第一相の憑神・死の恐怖／スケイス等と共に100階層のボスをやつとの事で倒したが、その後すぐに連戦でヒースクリフこと茅場晶彦と回復する間もなく少しずつHPを削られて全損、ゲームオーバー  
|| 死。

死んだ筈の俺は、ふと意識が戻る。

俺の身体は12歳位の少女に成っていた。

「はあ、またか。今度は女ねえ」

これまでの記憶を辿ると、前世の記憶が有って、今世の自意識が芽生えてから今までの記憶が有って状況を理解した。

私は桐ヶ谷和人の実妹で直葉の義妹。

私の名前は、桐ヶ谷夜志乃。

SAO開始が明日で今日明日も歌手業も休みだし、SAO開始に備えてゆつくり休みますか。

翌日昼からSAO開始なのでログインする。

私は次の人生でもSAOをやるよ。

貴方はやりますか？

それともしないですか？

それでも会いたいよ・・・□□□。

私は前世の三崎亮時の姿をアバターとして作って、アバター名をキリノ（Kirino）と付けた。

始まりの町を散策して赤髪のにいちゃんを見つけた。

その赤髪の兄ちゃんは、迷い無く駆けていくプレイヤーに声をかけ、指導してくれと頼んだ。

了承を得て私も同行させて貰う。

「私はキリノ。フレンドを作る目的で同行させて貰った」

「おう、良いぜ。俺はクライン。よろしくな」

「キリトだ。よろしく」

私達はフレンド登録をしてからクラインのソードスキルの発動練習をした。

「ソードスキルを出すには意思よりもポーズを意識して〜!」

「ソードスキルが出ればシステムがエネミーに中ててくれるさ」

「そうは言ってもよく。こいつ動くしよく。」

何度も練習してソードスキルを思う様に発動出来る様に成ってはしやくクラインは17時頃に夕食にピザを頼んでいるとメニューを開いて……。

「ありや? ログアウトボタンがねえ」

「そんな筈無いだろう。もつとよく探してみろよ」

「……………」

「いや、マジで無いんだって」

そうこうしてる間に17時に成り始まりの町の鐘が鳴り響く。

ゴーン ゴーン ゴーン

その鐘を聞いた全てのプレイヤーが広場に転送され、集められた。

GMアバターが登場し、ログアウトボタンが無いのは仕様であると言ふ事、二千人の死者が出た事等の説明をしてチュートリアルを終了した。

「これの何処がチュートリアルなのよ!」

「!?!」

それから真実の鏡でリアルな姿に戻り、キリトに兄妹である事がばれた。

「夜志乃!?!」

「にい。ネットマナー」

「ああ。悪い」

「あの、お嬢さん」

「何? クライン改まって。キャラじゃないでしょ。今更取り繕っても遅いわよ」

「うっそれもそうか。キリノ付き合ってください」

「私は片思いの人が居る悪いけど恋人には成れないわ」

「そうか」

「それでも良ければクリアした後アドレスを教えても良いわよ」

「本当か？」

「ええ」

「それじゃあ行こうパーティー組んで次の町へ」

「悪い。俺は行けねえ。友達と一緒に組むって約束してるんだ」

「そっか」

「クライン。私は置いて先に行く。だから追いついてきなさい。良いわね」

「応。先に行ってる。追い抜いてやるから」

そう言葉を残して私達は別れた。